


- 2 . 「きぼう」の人文社会・文化利用に係わる促進方策の調査

Study on academic and artistic use of International Space station Japanese module "Kibou"

 キーワード	宇宙開発、文化、芸術、学術
Key Word	Space, Art, Culture, Academy

1. 調査の目的

21世紀、人類は宇宙時代に入ったといっても良い。様々な宇宙輸送の検討が進められており、宇宙飛行士でもない多くの人の宇宙滞在の実現が真近かとなっている。このような中で、従来以上に芸術や学問に宇宙観が深く影響を及ぼすことが予想される。このために近く実現する国際宇宙ステーションにおける可能性について早急に検討することが不可欠となっている。

かかる視点から、国際宇宙ステーション特に日本実験棟（JEM）の人文社会・文化分野での利用促進のための方策の検討にあたり、本分野における利用形態、促進方策、情報発信手法について調査・検討を行った。

2. 調査研究成果概要

(1) 調査内容について

1) 「きぼう」の人文社会・文化分野での利用形態・イメージの検討

「きぼう」の人文社会・文化分野における国内の潜在的利用者（芸術家、社会学者等）の利用ニーズを調査してとりまとめると共に、有識者（潜在利用者）に面接などを通して可能性のある利用形態・イメージについて検討を行った。

2) 「きぼう」の人文社会・文化分野での利用促進方策の検討

「きぼう」の人文社会・文化的な利用の促進にあたり、利用ニーズに対する資金調達や機構との連携を検討に含め、利用者（芸術家、社会学者等）の立場から機構が整備・実施すべき事項を識別し、その内容の検討を行った。

3) 「きぼう」の人文社会・文化分野での利用促進のための情報発信手法の検討

「きぼう」の人文社会・文化的な利用の促進のためには、効果的な情報発信を行うことが重要であるため、誰に対してどのような形態で情報発信するのが効果的か検討を行う。人文社会・文化的な利用の成果を効果的に国民に還元（情報発信等）する手法についても検討を行った。

(2) 調査結果の概要

1. 人文社会系諸科学における「宇宙」とのかかわり（「きぼう」の利用）の可能性

ここでは法学・経済学など基礎的な社会科学についてはあまりに基礎理論的あるいは現実の社会生活を対象としているために、検討対象としてはなじみにくいので除外した。人文社会系科学研究における「宇宙」とのかかわり（「きぼう」の利用）の可能性についてここでは人文社会系科学研究全般を視野に入れた包括的な可能性の検討を実施した。

人文社会系科学研究においてその対象領域は広いので、まず日本学術会議に参加登録している学術研究団体から抽出し、学問領域ごとに括り、つぎにそれぞれの領域において「宇宙」と

のかかわり（「きぼう」の利用）の可能性についての検討を行った。このような人文社会系科学研究における「宇宙」とのかかわり（「きぼう」の利用）の可能性とはつぎのような視点からアプローチした。

1. 研究対象に宇宙における人間活動が含まれるか
2. 研究を進める手法として宇宙観（宇宙における人間活動を拡張）が影響するか
3. その他

以上の視点に立ってそれぞれの学問領域における可能性の検討を加えた。日本学会会議に参加する人文系学術研究団体を大きな分野に分けると次の通りである。

哲学 思想・宗教 心理学 言語学・情報・コミュニケーション 文学 歴史学、教育 地域研究 芸術 スポーツ・身体学・観光 家族・社会、その他

それぞれの学問領域において宇宙観（或いは天の概念）・宇宙と人間の相関に関する思念がそれぞれの学問内容に影響を与えてきたか、もし与えてこなかった場合は「宇宙時代の到来によって新たに影響を加える可能性があるか」、次にそれぞれの学問分野においてはどのような形で現象化してきたのか／現象化する可能性があるのかについてそれぞれの学問領域における研究者への直接の質問し試論を纏めた。

2. 芸術表現（表象芸術）分野における「宇宙」とのかかわり（「きぼう」の利用）の可能性
音楽、オペラ、演劇〔舞台芸術〕、舞踊、映像表現、伝統芸能、などの区分が可能である。
表象芸術分野の創造性探求では従来に増して創造性の視点から利用可能性の探求を拡大し、現代芸術に偏らない古典芸術領域からの参加の促進パフォーマンスと研究のバランス取れた促進の検討を行った。このような検討のないようについては個別の特徴があり、詳細についてはここでは省略する。